

JPALS 活用術 メリット等の経験談

JAPAN PHARMACEUTICAL ASSOCIATION LIFELONG LEARNING SUPPORT SYSTEM

ポートフォリオで記憶を呼び覚ます

病院薬剤師だった私は膨大な情報に囲まれ、医薬品情報管理室を含め書棚に大量に保管していた。それでも必要な情報がなかなか見つからないときは、メーカーに依存している状態だった。また、講演会等にも何度も出席し、繰り返し同じような内容の講演を聴き自分の使える情報に創りあげていた。病院を離れ保険調剤の世界に行ったわけだが、そもそも情報量・質ともに少ないのに驚いた。そして、情報の少なさに恐怖すら覚えた。

JPALSの担当になったのをきっかけに、数少ない講演会等のポートフォリオを記載していった。正直、最初はよくわからないこともあり、面倒だった。

保険調剤の業務にも慣れていくとなぜか恐怖心も薄れていった。

ある脳卒中関連の講演会で、新しい診断方法と出血リスクを減少させる治療薬の選択基準についてのお話を聴き、情報と知識のアップデートは重要だと気がついた。もちろんポートフォリオに記載しておいた。

あるとき、支部から脳血管障害等の薬剤師向けの講演を依頼された。渋々引き受け、資料を作成していたが、以前より情報のストックも少なく、資料作りも難航していた。

資料作成中にスタッフより、ポートフォリオに

対する質問があり、自分のページで解説していた。そして自分が過去に記載したポートフォリオを見て、こんなに色々書いてあって便利！しかも忘れていた内容が思い出されるではないか！内容自体はあまり細かくは書かれていないが、自分が一番学べたこと、そして感じたことを読むとどんどん記憶がよみがえってくるし、調べる際のきっかけやキーワードの発見にもなる。そこで初めてポートフォリオのありがたさ、そして自分が忘れっぽいことを再確認した。

資料作りとスタッフへのJPALS指導を通じ、記録することの大切さ、そして記憶を呼び覚ますきっかけとしてのポートフォリオのメリットを感じた。

また、勉強会后ポートフォリオ作成のデモンストラクションを行った際、疑問点を記載したところ、演者より質問として受け付けていただき、勉強会自体が大変有意義になったことがあり、JPALSによって相乗効果が生まれたと感じた。

最近では支部勉強会の予定を組む際、クリニカルラダーレベルをチェックし、過去にあまり行っていないような内容の勉強会を開催できるように心がけているので、勉強会企画に関してもJPALSを利用している。

JPALS CL5 プレチェック・実践記録提出状況 平成26年12月1日現在

都道府県薬剤師会	CL5人数 (人)	CLレベル5維持		プレチェック数			実践記録(ポートフォリオ)提出数		
		可(人)	不可(人)	383(完了) (人)	382~1 (人)	0 (人)	18本以上 (人)	1~17本 (人)	0本 (人)
北海道	857	126	731	857	0	0	126	293	438
全国	17014	2111	14903	17014	0	0	2111	5356	9547

ログイン状況 2013年5月11日~2014年11月30日

ログイン	人数	%
あり	519	60.6%
なし	338	39.4%
総数	857 (北海道)	